

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援とものわ親子教室		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日 ～ 令和6年 12月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数) 25世帯
○従業者評価実施期間	令和6年 12月1日 ～ 令和7年 1月25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に寄り添う療育	個々に合わせて内容を考えたり、細かい配慮をしている。	どの職員でも同じような対応や配慮ができるように、研修を実施していく。
2	保護者へのサポート	保護者の様子を見て、適宜面談をしたり相談に応じている。 母子通園のクラスでは保護者交流会を実施。 初めての子どもには慣らしの時間を作り、保護者が安心して通えるように意識している。	研修を重ね、研鑽を積む
3	安全面	建物の構造や災害のバリエーションに合わせた避難訓練を適宜実施している	今後も継続して避難訓練を実施し、都度振り返りを行い、防災意識を高めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながり	利用児の事を第一に考えると、不特定多数の地域の方との交流を持つ場を設けるよりは、落ち着いて過ごせる環境での支援が未就学児の今の時期には大事であると考えため。	クリスマスやハロウィン、餅つきなどの季節の行事は、慣れた職員や環境であるクラス内で実施。また、いつも利用している公園の清掃と遊具の安全確認を職員で実施する。
2	バリアフリー面	一軒家を使用しているため、段差や階段がある。	自宅と似た空間を活かし、子どもに必要な事故防止策を検討し、保護者と共有して日常生活に般化できるようにする。
3	父母会の実施について	保護者の負担軽減のため実施していない。ただ、就園・就学前の保護者に対し、ご希望があれば卒園された先輩保護者の講演会の実施は都度検討している。	引き続き、就園・就学前の保護者の希望があれば、先輩保護者の講演会の実施を検討する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援とものわ親子教室

公表日 R7年 2月 17日

利用児童数 27人

回収数 25部(25世帯)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25					親子クラスはお子様の年齢や特性に合わせて分け、人数調整をしている。また母子分離療育でも人数調整のため部屋を分けることがある。今後もスペースを十分確保し、安全で快適な空間の提供に努める。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	24	1				規定に応じた職員配置を行っている（幼稚園教諭、保育士、心理師）。通常7人の職員が配置されている。その日のお子様の人数や状況に合わせてクラスに入る職員の配置を変えるなど臨機応変に対応している。今後も配置基準を順守して継続する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	2				お子様の特性に合わせて部屋を変えたり、視覚化するなどして環境を整え、子どもにわかりやすく工夫している。今後子どもたちが安全に活動できる環境づくりに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25					安全に遊べるように活動に合わせ環境整備をしたり、日々の清掃で清潔を保っている。今後も日々の清掃に努め活動に適した空間を提供する。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25					お子様の様子は、スタッフ間で都度共有し共通理解を図っている。お子様のそれぞれの特性に合わせた配慮を保護者と一緒に考えながら対応している。今後もお子様に合わせた専門的な支援を実施する。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25					支援プログラムの公表がまだできていないため、今年度中に実施する。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	25					親子教室では、連絡ノートや保護者交流会を行い保護者のニーズとお子様の現状をリアルタイムで共有している。半年ごとにお子様のモニタリングと個別支援計画の作成・適宜修正を行っている。個別支援計画は保護者の意向も参考になっている。今後もお子様と保護者のニーズを客観的に分析し支援計画の作成に努める。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25					ガイドラインに沿い、個別支援計画を作成している。また、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」に分けて具体的に支援内容を設定している。今後もわかりやすい支援計画の作成を行う。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25					個別支援計画に基づき職員・保護者間で情報共有しながら支援を行っている。また、お子様の状況に応じて臨機応変に対応を考えて接している。今後も適切な支援の実施に努める。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	25					お子様それぞれに合わせた好きな遊びを提供したり、季節に合わせたプログラムを計画・実施するなど、活動プログラムが固定化しないよう工夫している。今後もプログラムが固定化しないよう工夫していく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	2	17	3		お子様が通われている幼稚園や保育所等の職員との連携は、園や保護者の要望がある場合は行っている。お子様同士の交流はしていない。今後も他施設の職員との情報共有を行いお子様の健やかな成長のため連携を図る。
保護者 へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24	1				支援内容は保護者それぞれに随時お伝えしている。利用者負担額は契約時に必ず説明している。今後も保護者への共有を実施する。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25					半年に一度個別支援計画を作成し、その都度保護者に丁寧に説明を行っている。今後も現状維持で継続する。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	1				クラスでは親子で活動する時間と、保護者交流会で保護者にも活動の振り返りをする時間を設けている。職員と保護者で支援の仕方や関わり方を一緒に考察している。また卒園された先輩の保護者方を招き、就学や就園の話聞く機会を設けた。保護者交流会では発達の特長や親自身の安定に向けた話やワークをしている。今後も現状維持で継続する。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25					クラスでは保護者交流会の時間に事前に活動内容や配慮点などを共有し、活動後は振り返りを行っている。母子分離療育では送迎時にお子様の様子について話している。このような対応を通して保護者との共通理解を図っている。今後も現状維持で継続する。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25					保護者交流会や日々の連絡ノートを通して相談しやすい環境づくりに努めている。また保護者からの相談があった場合には適宜時間を設け個別対応している。今後も相談しやすい場の提供に努めていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25					保護者の思いに寄り添い、共感的なコミュニケーションを行っている。また保護者交流会では保護者の悩みを知る機会を設け、職員がリアルタイムで保護者の思いを知ることができる場となっている。今後も現状維持で継続する。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	2	13		父母の会や保護者会など通われている保護者全員の交流会はないが、クラスごとの会は療育中に毎回行っている。保護者交流会を通して、同世代の親が持つ悩みを共有し、共感的なコミュニケーションを行っている。交流会は同じメンバーで行うため保護者同士の交流を深めるきっかけになっている。また卒業された先輩の保護者方を招き、就学や就園の話聞く機会を設けた。今後も現状維持で継続する。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22			3	苦情を伝える場面は今までなかったが、ちょっとした疑問などには丁寧に説明してもらっている。	苦情窓口について契約時に保護者に説明している。苦情があった際には児童発達管理責任者が迅速に対応する。今後も保護者のご意見を尊重し、安心してご利用いただけるような環境整備に努める。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25					視覚支援（実物、イラスト、写真など）を使って目で見て理解できるように分かりやすい伝え方を工夫している。保護者に対しては日々の連絡ノートや送迎時に会話することで意思疎通を図っている。今後も現状維持で継続する。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23	1		1		活動の様子をホームページのブログにてお伝えしている。ブログの存在を契約時や療育の保護者交流会で伝え、ブログをプリントアウトし掲示して活動内容の発信を行っている。日々の連絡事項は口頭での説明、掲示、メールにてこまめな情報共有を行っている。今後も活動の様子を発信する。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25					児の個人記録は鍵付きの棚に入れ保管している。ブログを発信する際は保護者の承諾を得たお子様の写真のみ掲載し、顔は隠すことを徹底している。今後も個人情報の適切な取扱いに努める。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	25					各マニュアルを策定し事務所に掲示することで職員間の周知を徹底している。保護者には契約時にマニュアルを配布し、交流会で更に丁寧に説明することでマニュアルの熟知を図っている。改善点は随時見直しを行いながら安全の確保に努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22			3		訓練の年間計画を立て職員間では定期的に行っている。実施可能なクラスでは、職員と保護者間で訓練も行っている。お子様に合わせて安全な場所に集まる練習など部分的な訓練をすることで意識付けをしている。今後も災害の発生に備え避難訓練を継続する。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25					クラスでは、保護者に説明を行い周知を図っている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25				体調のことやけがのことなどいつでもすぐに伝えてもらい、きちんと対応してもらっている。	発熱や体調不良に気づいた際はすぐに保護者に連絡を取り、その後の対応を相談して決めている。転んだ等の事故の場合は、迎え時に状況を必ず詳しく伝えている。
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23	1		1	いつも安心して楽しそうに通わせてもらっている。	クラスはお子様も職員も同じメンバーで活動し、環境の変化に配慮している。保護者と連絡を密にして、一人一人に合わせた配慮を心がけている。今後も安心して過ごせるよう努める。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	25				とても満足していて、ここに出会えてよかったと心底思っている。	プログラムが固定化しないように工夫している。またお子様の特性に合わせた接し方を職員間で共有しながら関わっており、お子様が安心して通所できる体制づくりに努めている。今後も現状維持で継続する。
	29	事業所の支援に満足していますか。	25					連絡ノートや送迎の際の直接のやりとり、保護者交流会での意見などリアルタイムに感想やご意見をいただき、活動に反映するよう努めている。今後も保護者やお子様満足してもらえるような支援を提供できるように努める。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援とものわ親子教室		R7年 2月 17日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11		親子クラスは子どもの年齢や特性に合わせて分け、人数調整をしている。母子分離療育でも安全を確保できるスペース作りの為人数調整をしている。	今後も適宜人数を調整し、快適な空間を提供できるよう努める。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11		規定に応じた人数を配置している。	日によっては、十分な休憩時間が取れないこともあるため、適宜職員間で連携して調整していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11		スケジュールを視覚で提示する、部屋ごとに活動内容を分けるなど子どもに分かりやすく構造化された環境になっている。	窓をマジックミラーやすりガラスにするという案も出ているため、必要に応じて環境の調整を検討したい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		毎日清掃し清潔な空間を保っている。	子どもによっておもちゃを口にいれたり投げたりする等の行動もあるため、その都度安全なものであるかどうかの確認が必要である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		クールダウンが必要な児に関しては、個別の部屋を使用することができるよう配慮している。	今後も継続する。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11		日々目標を考えながら実施している。セッションが終わるごとに職員同士で振り返りを行い情報共有している。	今後も継続する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		年に一度保護者向け評価表をお渡しし、内容を集計している。保護者からいただいた意見を参考にし今後の課題や改善点を考えている。	今後も継続する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		セッションごとに入った職員間で振り返りを行ったり、普段の会話の中で価値観を共有するなど積極的に意見交換の場が設けられている。	今後は職員全体での意見交換の場も必要であると考える。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	3 未回答1	外部評価は行っていない。	必要に応じて検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	未回答1	事業所内では研修が都度開催されている。	外部の研修は時間の確保が難しく実施できていない。今後は研修の場を設けていきたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		支援プログラムは職員間で話し合いながら作成している。	今後も継続する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11		日々の記録や専門支援記録を通じて個々の子どもに対するアセスメントを行っている。また日々の連絡帳や保護者交流会、送り迎え等で保護者のニーズを把握し分析したうえで児童発達支援計画を作成している。	今後も丁寧に関き取りを行い、子どもに合った支援計画の作成に努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		モニタリング後に、児童発達支援計画会議を設けて全体に周知、検討を行っている。	今後も継続する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		児童発達支援計画は各子どもの個人ファイルに保管し、全職員が確認できるようにしている。児童発達支援計画に基づいてその子に合った支援を実施している。	今後も継続する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11		日々の記録を取り子どもの情報収集・分析を行い、状況を把握している。また子どもだけでなく保護者からもらった情報も参考にし、アセスメントしている。	今後も継続する。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		児童発達支援ガイドラインに沿い、半年ごとに作成・修正をしている。また、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」に分けて具体的に支援内容を設定している。	今後も継続する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		セッション後の振り返りをチームで行ったうえで、次の活動を計画している。	今後も継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		子どもに合わせた遊びを提供したり、季節に合わせたプログラムを行うなど、活動プログラムが固定化しないように工夫している。	今後も継続する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11		子どもの状態や、子ども同士の関係も考慮して児童発達支援計画を作成し、支援している。	今後も継続する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11		支援を行う前日までに、当日関わる職員間で打ち合わせを行っている。また子どもを迎え入れる前に再度確認をしチームで連携して支援を行っている。	今後も継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11		支援終了後の振り返りは必ず実施している。子どもの様子や、職員の対応についても丁寧に振り返ることで次の活動に繋げている。振り返りを行うことで各々の向上心にも繋がっている。	今後も打ち合わせや振り返りを継続し職員間で情報を共有する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11		療育記録、専門支援記録で日々の支援についてアセスメントし今後の課題を考えている。	今後も支援の記録を継続し、支援の検証・改善を職員間で徹底する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11		半年に一度モニタリングを行っている。計画の変更が必要な場合は都度話し合いを行い保護者に伝えている。	今後も継続する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	1	受給者証の更新のタイミングで、その子どもの担当者が関係機関と電話で情報共有を行っている。	今後も継続する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11		子どもが通っている幼稚園や保育所、就学予定の小学校、医療機関などと適宜情報共有している。	今後も継続する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11		幼稚園や保育園の職員と電話で、それぞれの施設での子どもの様子や支援内容などの情報共有を適宜実施している。	今後も継続する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11		就学先の小学校からの意向があった場合に情報共有を行っている。	今後も要望や必要に応じて情報提供を行う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	4 無回答5	現在はそのような機会は取れていない。	今後は地域の研修に参加するなど連携を図ってきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	10	子どもが通っている幼稚園の職員との連携は行われているが、子ども同士の交流はしていない。	今後も継続する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		お迎えの時間や連絡ノートでその日にあったことを伝えている。また面談や交流会で子どもの発達の状況・課題を保護者と一緒に考えることで共通理解を図っている。	今後も継続する。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11		親子で活動する時間と保護者交流会で保護者が活動の振り返りをする時間を設けている。	今後も継続する。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11		支援内容は保護者それぞれに随時お伝えしている。利用者負担額・運営規定は契約時に必ずお伝えしている。	今後も継続する。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11		子どもの日々の姿から好きな活動を取り入れるように意識している。またお迎えの時間や連絡ノート、保護者交流会や面談を通して保護者の意向を確認する機会を設けている。	今後も継続する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11		半年に一度児童発達支援計画を作成し、その都度保護者に丁寧に説明を行っている。	今後も継続する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		連絡ノートの内容や保護者の表情から声をかけ、適宜時間を設け個別対応する場合がある。	今後も継続する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	8	父母の会や保護者会など通われている保護者全員の交流は無いが、クラスごとの会は療育中に毎回行っている。	きょうだいへの支援は実施していないが、開催してほしいという意見が出た際は検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		苦情窓口について契約時に保護者に説明している。相談や申し入れがあった際は児童発達管理責任者が迅速に対応する。	今後も継続する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11		活動の様子をホームページのブログにてお伝えしている。日々の連絡事項は口頭での説明、掲示、メールにてこまめな情報共有を行っている。	今後も継続する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		名前が記載された記録を破棄する際は必ずシュレッダーを使用している。子どもの個人記録は鍵付きの棚に入れ保管している。ブログを発信する際は保護者の承諾を得た子どもの写真のみ掲載し、顔を隠すことを徹底している。	今後も継続する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		子どもに対しては視覚支援（実物、イラスト、写真など）を使って目で見て理解できるようにわかりやすい伝え方を工夫している。保護者に対しては日々の連絡ノートや送迎時の会話、保護者交流会等で会話することで意思疎通や情報伝達を図っている。	今後も継続する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	3	公園に行く際に、地域住民の方へ挨拶をするなど心地良い関係づくりに努めている。	プライバシー保護を希望される保護者もいるため、地域住民を招待するなどの事業運営はできていない。
非 常 時 等 の	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		各マニュアルを策定し事務所に掲示することで職員間の周知を徹底している。保護者には契約時にマニュアルを配布し、交流会で更に丁寧に説明している。	改善点は随時見直しを行いながら安全の確保に努める。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11		訓練の年間計画を立て、職員間、職員と保護者間の訓練を行っている。子どもに合わせて安全に集まる練習など部分的な訓練をすることで意識づけをしている。	今後も継続する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	8	現在は服薬や予防接種が必要な子どもや、てんかん発作などが見られる子どもは在籍していない。	今後そのような子どもがいた場合には、保護者と情報共有しながら対応する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	7	現在食物アレルギーのある子どもは在籍していない。医師の指示書はないが、母からの対応の情報収集はしている。行事等で、普段提供しないものがある際は必ず確認を行い、保護者とも再確認を行っていく。	今後も継続する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		避難訓練などの研修を行い、安全管理のための知識を得たうえで支援を行っている。	一度に全員周知するのは難しいが、研修や訓練などを行ったうえで、参加できなかった職員にも共有し周知を図っていきたい。

対 応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		契約時に緊急時の対応を説明している。 また緊急連絡先の変更などがあった場合には書き換えを都度保護者にしていただいている。母子分離療育の際には必ず利用者名簿記入を保護者へ記載していただき、災害時の連絡先を明確にしている。	今後も継続する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		ヒヤリハットに関わった職員で振り返りを行い、反省点・改善点を話し合って記録に残している。業務日誌にファイリングし職員全体に周知している。	今後もヒヤリハット報告書の記載をもとに、対策を検討する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		年に一度、および新入職員が入ったタイミングで虐待防止研修を実施している。今年は職員だけでなく保護者とも共有し、虐待防止の方法について一緒に考案した。	今後も社会情勢を捉えながら防止に努める。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	1	現在そのような場面はないが、今後必要な子どもには事故・怪我防止のため事前に保護者と共通認識・同意を得た上で行っていく。	今後も継続する。